

地区目標

「美しい心、ロータリアンの矜持
～修養、友情、情熱、奉仕、平和、感動～」

クラブテーマ

「あなたのロータリーをみつけよう」

◆点鐘：半田 稔 会長

◆ロータリーソング：国歌・蔵王を仰ぐ

◆司会：西谷 真一 S.A.A.

◆会場：パレスグランデール

ロータリー：
変化をもたらす

第2781回例会

平成29年 8月7日(月)



Yamagata West Rotary

会長挨拶

半田 稔 会長



ガバナー公式訪問

今日は、鈴木一作ガバナーをお迎えてのガバナー公式訪問例会です。先ほどは1時間にわたり熱心なご指導をいただきました。ガバナー公式訪問が夜の例会というのは珍しいですが、ガバナーは開業医をされており、患者さんを診る時間を少しでも減らしたくないということで、今日もギリギリまでお仕事をされてきた、ということです。頭が下がるばかりです。

戦時下のロータリー

さて、8月6日、9日は原爆が投下された日、15日は終戦記念日ということで、テレビなどでも戦争に関する特番が組まれています。今日はこれにちなみ、「戦時下のロータリー」という話をさせていただきます。といひましても、日本のロータリーは、昭和15年までにすべて解散していますので、そこに至るまでの、右傾化・軍国化が進んでいた昭和初期の話が中心です。

ご存じのとおり、第1次世界大戦後、日本のアジア進出にアメリカが待ったをかけるようになり、反米感情が徐々に高まってきました。RCもアメリカに本部があるということで、軍部や国粋主義者の中に反感を持つ人が増えていき、昭和6年には、右翼壮士の一団が京都RCの例会場に乗り込むという騒ぎもありました。当時の会長は、私たちは地域社会への奉仕をしているので、天皇陛下の御為になっていると説明したところ、その証を立てろと要求され、例会場に国旗を掲揚すること、国歌を斉唱することを約束し、一団は引き上げました。このことが他のRCにも伝わり、どこのRCでも、国旗を掲げ、国歌を斉唱するようになりました。

もう一つの対応策が、Rソングです。昭和の初めまでは、アメリカ生まれのRソングを歌っていました。東京RCでは、英語で歌っていたそうです。そこで、日本人が

作ったRソングを、ということで、公募が行われました。昭和10年に審査が行われ、その時入選したのが、「奉仕の理想」と「我らの生業」です。「奉仕の理想」の歌詞に「御国に捧げん」とありますが、応募した時点では「世界に捧げん」だったのが、改められたのだそうです。当時のガバナーが国粋主義者だったからとも、軍部などの反感を和らげるためとも言われています。

そのようにして何とかRCを続けようとしたのですが、その後もRCに対する弾圧は続き、結局国内のRCは、昭和15年までにすべて解散しました。しかし、RCという名称は廃したものの、ロータリーの精神は受け継ごうということで、それまでの例会日に集まり、東京水曜会、大阪金曜会などと名乗って、隠れキリシタンのように活動を続けていたそうです。

RCは戦後復活するのですが、国旗と国歌の慣例はそのままだり、今日まで続いています。日本のRCには、このような冬の時代もあったということを忘れないでください。

幹事報告

五十嵐 信 幹事

- 皆さんの机の上に、金沢西ロータリーさんからのきんつばがありますので、皆さんどうぞご賞味ください。
- 熊本城東ロータリークラブから、昨年の震災の義援金の御礼の手紙が届いています。
- 鈴木ガバナーから新入会員の高嶋さんに記念のパナーを進呈します。

ニコニコBOX

武田元裕さん／鈴木ガバナーには地区職業奉仕委員長をおつとめの際には、3年連続で「職業奉仕フォーラム」の講師をつとめて戴き、本当にありがとうございました。本日も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

坂部登さん／鈴木ガバナーようこそ。

ガバナー公式訪問 講演要旨

『美しい心、ロータリアンの矜持 修養・友情・情熱・平和・感動』

2017～2018年度 国際ロータリー
第2800地区ガバナー
鈴木 一作 ガバナー



PETS資料

ガバナーというのは、RIの役員であります。従って、RIの方針についてお伝えしなくてはならない役割を担っています。クラブの活性化・発展のために、いろいろなやり方がありますが、私はPETSの資料、地区研修協議会の資料にロータリアンなら考えて欲しいことをすべて詰め込んだつもりであります。

ロータリアンは3つのことを知っておかなきゃいけない。その3つとは、1976年のRI理事会の決定の文書、1923年の決議23の34の(1)にあるロータリーの定義に続いての文章、ガイ・ガンディーカーの考え方です。会員増強、奉仕のプロジェクト、ロータリー財団支援、リーダー育成の4つ、これもまた、押さえておいて欲しい。

クラブの社会奉仕事業、職業奉事業、国際奉仕の事業の中身はどんなものがあるのかについて、ポリシーとともに、具体例をその資料の中に入れました。

規定審議会でわれわれはRIを変えることができる、2800地区あるいは日本全国のガバナーが一致協力すればいろんなことができるんだ、ということを知っておいて欲しい。

また、決議事項、申し合わせ事項というのはガバナーと各クラブの会長の契約書です。会長が地区に行き、ガバナーとどういう約束をしてきたのか、冊子の中でまとめました。

ガイ・ガンディーカーの“A Talking Knowledge of Rotary”、この本に負けないものと思って書いたつもりです。

今年のRIテーマは「Rotary Making A difference」、日本語は「ロータリーに変化をもたらす」というふうになっています。「Making A Change」じゃなくて「Making A Difference」というのがポイントです。RI会長イアン H.S. ライズリー氏の言わんとするところは「ひとつの違いを作りなさい、特徴を出しなさい。それがあなたの素晴らしいところであり、それを伸ばしなさい」です。このテーマの図柄にはいろいろな色がある、いろんな高さがある。でも、それはマルい地球で囲われている、いろんな人、いろんな国、いろんな物がこの中であふれながら、それぞれ伸びていこうとしている、それらを応援するという意味合いです。「ロータリーの意義ある活動は、世界に変化をもたらす、地域に変化をもたらす、クラブに変化をもたらす、そして、ロータリアンそのものにも変化をもたらす。われわれが目指すのは発展であるDevelopmentである」とも説明されています。

RI会長賞

私は月信の第1号にRI会長賞の取得条件を縷々書かせていただきました。そのためにはMY RotaryというWeb

で、ロータリークラブセントラルに、いろんなことを報告しなくてはなりません。それを事務局、そして幹事にマメにやっていただきたい。何と言っても、2800地区から初めてRI理事が出ている。世界のトップセブンティーン・17名のうちの1人である石黒慶一先生の男を咲かせてあげよう、ということなのです。

ロータリーの目的

ロータリーの目的を図式化したものを作りました。大切なのは、立派なロータリアンを作ることです。この図がロータリーの目的の正しい分かりやすい見方、読み方というふうに思っております。

ロータリーの魅力 クラブの魅力

職業分類、そして入会の会員紹介制、例会が出席重視で毎週、役職が1年任期制、そして奉仕活動をする。理念を学び実践をする、そういう中で私たちは、友情、敬愛、忍耐、寛容、自己練磨、社会貢献、こういった気持ちを、考え方を、そして手法を身に付けていく、これがロータリーの魅力です。

今日のクラブフォーラムのテーマも「魅力あるクラブであり続けるために」です。クラブの魅力、友情というのは簡単ですが、それはロータリーでの魅力です。うちのクラブだからこそというところにポイントを置いて、自分のクラブの魅力、あるいは逆に弱点、そういったものをお考えいただければ、と思います。

ガバナー月信はガバナーの指針

ガバナー月信の第1号に私の思いを書きました。月信は前例や先例にとらわれず、より良いものを目指します。月信に読まれない記事は載せない。それが私のポリシーです。地区委員長には年間3回、好きなことを書いてもらいます。ガバナー月信は私の指針として書いているということをご理解いただきたい。

クラブ公式訪問後の原稿ですが、クラブの特徴、クラブの自慢を書いて欲しいのです。クラブの自慢なら皆さんどうしたって読みますよ。集合写真なんか要らない。

国際ロータリー第2800地区にホームページに「ロータリーを学ぶ」があります。フェイスブックも作りました。

「国際ロータリー2800」と入れると出てきます。

偉い人より、立派な人に

磯田道史先生は著者「無私の日本人」のあとがきに、こう書いています。

「世間的に偉くならずとも、金を儲けずとも、ほんの少しでもいい、濁ったものを清らかな方に変える浄化の力を宿らした人、それが江戸時代にはいっぱいいた、それを掘り起こして私は本を書いた」と。日本でロータリーがこんなに発展して、そして人口当たり会員数では山形県がこんなに多い、それは「無私の人」に誰も気持ちが動いていく、それが日本人、特に山形県人に多いからだ、と私は思っています。

「美しい心、ロータリアンの矜持」で、これからいろいろがんばっていきます。見応えのある月信を作ろうとは思っていません。読み応えのある月信を作ろうと思っています。

クラブフォーラム



職業分類・ 会員選考委員会

武田 元裕 委員長

本日の例会は鈴木一作ガバナーのご要請でクラブフォーラムを開催することになりました。

クラブフォーラムはクラブ討論会と言われ、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕の5大奉仕部門の中から問題を取り上げ、その実施推進について全会員が討論を行い、ともに進路を見いだすという会合であります。

このクラブフォーラムの進め方がありますけれども、まず、2012年から2014年度まで3年間長期特別委員会の副委員長でありました飯田喬之さんから、3年間にわたるクラブフォーラムの経過をご報告いただきます。次に昨年の長期特別委員長の坂部さんから、アンケート結果をかいつまんでご報告をいただく、以上2点、経過報告をしていただいた後に、おふた方から意見発表をお願いしたいと思います。おひとり目は中山真一さん、それでおふたり目は海和浩運さんをお願いしたいと思います。

それが終わりましたら、軽くお酒を召し上げて会食しながら、ディスカッションをしていただいて、最後に、「魅力あるクラブであり続けるために私はこう思う」と、1行なり2行なり書いていただき、回収させていただきます。



2012～2014年度 長期特別委員会

飯田 喬之 副委員長

私は1999、2000年度に佐山西クラブ会長の下で幹事をさせていただいたご縁で、3年間、長期特別委員会の副委員長を務めさせていただきました。

武田元裕会長のとときの事業報告書の中に3年間の報告を載せていただきました。非常に勉強になる部分は細谷伸夫パストガバナーのお話の要旨であります。

どうということかと言いますと、会員の減少ということが起きた時に、内向きな自己満足型では発展していかない、という指摘であります。

このことについては、対外的奉仕をどうとらえるかということから第1回目の議論の争点は親睦か奉仕かということになりました。そのときに奉仕が必要だと言う人が少なかったんですね。われわれは親睦第一でいいよと言う先輩方が多かったんですが、3年続いてその空気がずっと変わっていく過程がそのアンケートの中にあります。親睦か奉仕かということの激しい議論でしたけれども、その翌年、吉田福平会長の際に、「会員の親睦によって醸成された連帯感こそが、奉仕の精神を具現化できる」と、まとまったと思っております。

そして3年度目。このときはパネラーを若い方になっていただいたんですが、その方々の発表はまさにそのことをじゅうぶんにご自分のものにされたという感がありました。3年間の事業であったわけですが、その後を引き継いでいただいて、当クラブの進むべき方向についての中長期に渡る皆さんの意見を具現化していただく形になったと思っております。



2015～2016年度 長期特別委員会

坂部 登 委員長

昨年と今年度、たまたま地区の会員増強の委員長をさせていただいておりますので、並行しながらやってきました。

先ず、2015年度、クラブ員の年齢、何歳の人が何人ぐらいいるのか、次に在籍年数を統計でまとめました。65歳から70歳が1番多い、われわれ団塊の世代が20年もすればいなくなっちゃうわけですから、これからどういう形でどういう年齢構成で勧誘を進めていったらいいのかというのがわかったと思います。

2番目、国際ロータリーの会員拡大の状況について、私、会員増強委員長ですから、日本というのは世界的にどのぐらいの会員の拡大率があるのかなということをいろいろ調べてみました。日本の平均は約1400名に1人ぐらいです。山形県は620名に対して1名でありますから、かなりの拡大率が高いということでもあります。

ガバナーは1名増と言いますが、私は「その前にやることがあるだろう、それは元気なクラブを作ることだ」と。昨年度は私なりに17項目にわたって質問事項を決めて皆さんからアンケートをとらせていただきました。ここの中で今日の議題となるべきものをいくつかご紹介したい。

1番目。「あなたは当クラブの会員であることを満足していますか」。ほとんどの方はわがクラブに対してじゅうぶんに満足しておられるということでもあります。

次に3番目。「クラブは、常に会員の声に十分耳を傾けていますか」。ロータリークラブは上から下に流れてくる。クラブの独創性がないのではないかというふうなお話を申し上げました。もう1点は、会員交流や親睦のメニューに関しては、それぞれのクラブの中で充実した内容を作っていただきたいと申し上げております。次に6番目です。「国際ロータリーの意義を職場や友人・家族に説明できますか」というところですが、あんまりできないんですね。説明できる人がいっぱいいない。ロータリーのことを学ぶ機会が必要ではないか、と申し上げたところであります。

もう1点、今回の議題になりうることでありますが、10番目です。「地域社会に認知される対外的継続事業が欲しいか」という質問をしました。ロータリーはそれぞれ単一のクラブでいろんな事業をやっているんですが、これを例えば第5分区とか第5ブロック、もしくは2800地区でまとまって事業できないだろうか、その方がずっと公共イメージの向上に貢献するんじゃないかと、あえて投げかけてみたわけでもあります。





社会奉仕委員会

中山 眞一 委員

ロータリーになぜ入りたくなるかという立場で考えてみた場合、私には、私の好きな米山梅吉翁の言葉があります。「人づくり、友達づくり、感動を分かち合うところがロータリーだ」であります。

西クラブは25名でスタートしたそうありますが先輩の皆さま方のおかげで今100人を超えています。それは鈴木ガバナーからいただいた御著のお言葉を借りて言えば、「立派な人、立派な人になるであろうと期待される人々」を数多く入れていただいたからだろうと思います。今日もこれから飲み会が始まります。そういつたところで友達もできます。米山梅吉翁の私の好きな言葉、「見えないところに仕事がある」で、なにかの案件があれば、ロータリーのあの人にちょっと頼んでみようか、と水面下で仕事を頼まれた人は数多くいらっしゃると思っております。

次に、感動を分かち合う。昨年度、めでたくわがクラブ、60周年を迎えました。記念事業は大成功に終わって感動を分かち合いました。よそのクラブと違うのは、美術館の前に10年、20年、30年、40年周年を記念して西クラブが寄贈したブロンズがあります。文翔館の前にもあります。そして50周年には山形テルサに大理石像「ラ・テーズ」があります。またこのたび、最上義光記念館の前に最上義光像。「あ、なんか新しいのがある、出来ばえいいな」と思って近づいていきますと、「あ、これは西ロータリーが寄贈したんだ」と、私は西クラブらしくていいなと思っております。

この前、新幹線でライオンズクラブの直前ガバナーがちょうど隣にお座りになりました。「ロータリーさんは、財界がもともと作ったんだから、すごい人ばかりですね」と、お褒めの話がございました。東京ロータリークラブはまさに財界で作っております。山形県の財界3団体を考えてみますと、商工会議所会頭、経済同友会代表も西クラブ員であります。おそらく入った時には立派な人になるだろうと期待されて入って、予定どおり立派になられたんじゃないかと思っております。

ガバナーの方針に沿ってこれからもわがクラブが発展して、RI会長賞を目指していきましょう。



奉仕プロジェクト委員会

海和 浩運 常任委員長

私は今年度、プロジェクト委員会に所属し、感じたことを述べさせていただきます。はじめに、社会奉仕委員会の活動として、2014年より毎年、石巻復興支援芋煮会を開催しております。当日は石巻の仮設住宅に現在も住まわれております皆さまを山形にお招きし、一緒に芋煮を作り、語り合い、年を追うごとに絆を深めているところです。

この奉仕プロジェクト活動を通し感じることは、奉仕活動は決して人のためではなく、自分自身が活動を通し多くを学び得る機会

であり、自らの成長にもつながることだと思います。加えてクラブで行う奉仕活動は会員の力を集約すれば、より大きな効果を上げる事業が行えることも感じました。次に青少年委員会ですが、今年度は当クラブがほぼ30年ぶりに交換留学生を受け入れます。佐藤英一委員長とも相談し、交換留学生のネルソンくんには積極的にクラブの例会や行事に参加していただく予定です。

私個人としまして、今後も各自ができることを考え、クラブ、また自分の職場内において継続的に奉仕活動を行い、その経験をクラブに持ち帰ることがクラブの活性化につながるのではと思っております。



感想

須藤 吉実 ガバナー補佐

今日お邪魔していちばん感じたことは、やっぱり100名もいるとすごいんだというのが第一印象です。100名は100名でいろんな悩みなんかもあるんでしょうけども、その中でも皆さんまとまっていて、大変すばらしいと思います。

今年1年間ですが、ガバナー補佐を務めさせていただきますので、よろしくお願いします。



講評

鈴木 一作 ガバナー

私、生まれも育ちも千葉県です。山形県出身者でないガバナーは私がたぶん初めてなんじゃないのかなと思っています。

山形県人についておもしろいなと思っているところがあります。それは、「意見のある人」って言うとも誰も手を挙げないんです。ところが、「だれだれさん一言、3分ぐらいお願いします」って言う、「そうですか」と立ち上がって15分しゃべります。思いがあるんですね。話の中身がまた上手。序破急、起承転結、パッと指してもね、上手にしゃべるんです。そして途中、止められないんですね。「まだ終わってない」ってね、しっかり15分しゃべる。これが山形県人だなと思う。

要するに思いはある、控えるべきところはきちんと控えている。でも場を与えるときちっと仕事をする。それが山形県人のすばらしいところかなと思っています。

今日は、皆さん誰が出てきても素晴らしいスピーチ。やっぱりこれはクラブの魅力かなと思います。そういう人を選んでいる。中山先生の話そのまま使えば、立派になる人を選んでいるということです。そういう中で育てば自分も上手なお話ができるようになる、そしてそれがまた会社で、あるいは地域で皆んなを良くしていく。それがちゃんとできているのが、山形西ロータリークラブかな、ということをしみじみ思いました。

今日は本当に素晴らしい例会に参加させていただいて、ありがとうございます。パストガバナーがいなければ、私、ここに移籍したいと思うぐらい素晴らしい、すごくいいクラブだと思いました。

<本日出席・修正出席>

	会員総数	出席会員数		会員総数	出席義務会員数	出席会員数	出席率
本日出席 (8/7)	101名	65名	修正出席 (7/24)	100名	84名	79名	94.05%
メイクアップされた会員	(イブニング) 海和 将浩、山賀 賢司、松原 洋、佐藤 啓、高田 元、大西 章泰、高田 元、原田 久雄 橋本 慶昭、結城 和生、児玉 賢一、橋本 徳光、伊藤 義彦、小林 廣之、風間 義朗、菅原 茂秋 工藤 浩明、佐藤 吉博、酒井 啓孝、武田 博文、三沢 大介、吉田 福平						